

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成26年6月19日 (2014.6.19)

【公表番号】特表2013-529781(P2013-529781A)

【公表日】平成25年7月22日 (2013.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2013-039

【出願番号】特願2013-516523(P2013-516523)

【国際特許分類】

G 0 1 N 30/26 (2006.01)

G 0 1 N 30/74 (2006.01)

G 0 1 N 30/64 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 30/26 E

G 0 1 N 30/26 A

G 0 1 N 30/74 E

G 0 1 N 30/64 A

G 0 1 N 30/64 C

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月1日 (2014.5.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の性質の所定値及び第 2 の性質の所定値を含む所定の特性を有する混合液体流を製造する方法であって、

a) 各々が第 1 の性質の異なる第 1 の値を有する 1 種以上 の液体流の第 1 の組を用意する工程と、

b) 各々が第 1 の性質の異なる第 2 の値を有する 1 種以上 の液体流の第 2 の組を用意する工程と、

c) 溶媒の 1 種以上 の液体流の第 3 の組を用意する工程と、

d) 用意された液体流を合わせる工程と、

e) 得られた混合液体流における第 1 の性質及び第 2 の性質がそれぞれの所定値に調節されるように第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方並びに第 3 の組の 1 種以上の液体流を変化させる工程と

を含む方法。

【請求項 2】

第 1 及び第 2 の性質が pH、導電率、濃度及び吸光度から選択される、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

混合液体流が緩衝剤であって、第 1 の組の各液体流が 1 種以上の塩基性緩衝成分を含有し、かつ第 2 の組の液体流の各液体流が 1 種以上の酸性緩衝成分を含有しているか、或いはその逆であり、場合により、1 種以上の塩基性緩衝成分を強塩基に代えるか又は 1 種以上の酸性緩衝成分を強酸に代える、請求項 1 又は請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】

第 1 の性質が pH であり、第 2 の性質が緩衝剤濃度であって、請求項 1 の工程 e) にお

いて、第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方を変化させて p H をその所定値に調節する、請求項 3 記載の方法。

【請求項 5】

第 1 の性質が p H 以外の性質、好ましくは導電率又は吸光度であり、第 2 の性質が緩衝剤濃度であって、請求項 1 の工程 e ) において、第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方を変化させて第 1 の性質をその所定値に調節する、請求項 3 記載の方法。

【請求項 6】

第 1 の性質が p H であり、第 2 の性質が緩衝剤濃度及び p H 以外の性質、好ましくは導電率又は吸光度であって、請求項 1 の工程 e ) において、第 1 及び第 2 の組の液体流の少なくとも一方を変化させて p H 及び第 2 の性質をそれらの所定値に調節する、請求項 3 記載の方法。

【請求項 7】

混合液体流の所定の特性が少なくとも第 3 の性質の所定値を含み、前記方法が、各々が 1 種以上の添加剤を含有する第 4 の組の液体流を用意し、第 4 の組の液体流を第 1、第 2 及び第 3 の組の液体流と合わせ、第 4 の組の 1 種以上の液体流を調整して少なくとも第 3 の性質をその所定値に調節する、請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 8】

第 1 の性質が p H であり、第 2 の性質が導電率であり、第 3 の性質が添加剤濃度、導電率及び吸光度から選択される、請求項 7 記載の方法。

【請求項 9】

所定の特性を有する混合液体流を得るための一組の異なる液体流の処方を用意し、処方に従ってフローフィードバックにより異なる液体流を制御することを含む、請求項 1 乃至請求項 8 のいずれか 1 項記載の方法。

【請求項 10】

混合液体流の性質を測定しつつ異なる液体流を変化させて性質をそれらの所定値に調節し、必要とされる液体流を決定し、次いでフローフィードバックにより異なる液体流を制御することを含む、請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか 1 項記載の方法。